



2023年5月15日

各 位

会社名 ウェルビー株式会社
代表者名 代表取締役社長 大田 誠
(コード番号 6556 東証プライム市場)
問合せ先 取締役副社長兼管理本部長 千賀 貴生
(Tel. 03-6268-9542)

特別損失の計上及び2023年3月期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、特別損失を計上することを決議するとともに、2023年3月期連結業績予想と実績との差異に関し下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

2022年10月3日付で公表しました「5-アミノレブリン酸原体及びサプリメントの棚卸資産譲渡に関するお知らせ」のとおり、株式会社ハンドレッドイヤーズ（以下、HY社という。）と商品売買契約（以下、本契約という。）を締結しておりますが、本契約に基づく支払期日に先立ち、5-アミノレブリン酸原体の賞味期限に関して意見が対立し、支払期日においては、譲渡代金の一部については入金を確認できたものの、残金についてはその後も入金を確認できませんでした。そのため、HY社及び同社の親会社である株式会社アジアゲートホールディングス（以下、AGHという。）に対して代金回収に向けた手続きと並行して、本契約の見直しについて協議を重ねてまいりました。当社としましては、法的措置による代金回収も検討していた中で、HY社及びAGH社から、2022年10月に譲渡した「5-アミノレブリン酸原体」及び「サプリメント 50mg 60カプセル/ボトル」の譲渡代金について約35.5%の減額（変更前：1,667,440,500円、変更後：1,075,223,040円）及び一部未入金分を含む譲渡代金の支払期日等の変更（※）の提案を受けました。ヘルスケア事業から撤退している状況を踏まえ、法的措置による回収よりも、変更契約の締結により早期解決することが今後の障害福祉事業への展開に注力できるとの判断により、2023年5月12日付で本契約の変更締結に至っております。

これらの経緯により、事業整理損として特別損失に92百万円を計上することといたしました。

なお、本取引において連結業績予想には商品譲渡益として4億55百万円を見込んでおりましたが、今回の減額による連結業績予想との差異については5億48百万円となっております。

※変更後の譲渡対価の支払期日及び入金予定額

支払期日	金額（円）	入金済み額（円）	未入金額（円）
2023年3月末日限り	175,700,850	175,700,850 ※3/31	
2023年5月15日限り	361,910,670	361,910,670 ※5/15	
2023年9月末日限り	537,611,520		537,611,520
合計	1,075,223,040	537,611,520	537,611,520

さらに、2023年3月10日付で公表しました「連結子会社における債権の取立遅延による競売申立に関するお知らせ」のとおり、当社及び当社の連結子会社であるウェルビーヘルスケア株式会社は、ネオファーマージャパン株式会社に対する債権回収のため、同社が保有する袋井工場の不動産（土地建物等）について競売の申立を行いました。当該債権における不動産担保物権は、外部の不動産鑑定事務所による不動産鑑定評価により、債権金額を上回っておりましたが、競売による減額率を見積り、4億78百万円の貸倒引当金を事業整理損として特別損失に計上することといたしました。

また、当社が保有する株式会社しくみデザインの株式について実質価額が著しく低下したことから評価額を0円にし、投資有価証券評価損として特別損失に77百万円を計上いたしました。

さらに、収益性が低下した固定資産及び将来の使用が見込まれなくなった固定資産について43百万円を計上いたしました。

上記等の結果、2023年3月期第3四半期累計期間に発生した特別損失20億59百万円から6億79百万円増加した27億39百万円を2023年3月期の特別損失に計上することとなりました。

詳細につきましては、本日公表しました「2023年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご覧ください。

2. 通期連結業績予想と実績との差異

(1) 2023年3月期通期連結業績予想と実績との差異

(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	10,677	1,831	1,866	△250	△9.07
実績 (B)	10,663	1,766	1,834	△1,370	—
増減額 (B - A)	△14	△65	△34	△1,119	
増減率	△0.1%	△3.6%	△1.7%	—	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	9,894	2,527	2,659	1,828	63.74

(2) 業績予想と実績の差異の理由

主力の障害福祉事業は堅調に推移いたしましたが、人件費や採用費に関するコストが増加したこと、さらに新規出店数増による調達コストが増加したことにより、営業利益及び経常利益が業績予想より減益となりました。また前述の「1. 特別損失の計上について」に記載の通り、商品譲渡、競売の申立、投資有価証券評価損及び収益性低下による減損損失等により、前回発表しました予想より親会社株主に帰属する当期純利益は1,119百万円の減益となりました。

以 上